

2011年11月17日

掛川市長松井三郎様

市民の命を第一に考えた行政をして下さりありがとうございます。

給食の食材の放射線量の測定

静岡県内では掛川市が先駆け、給食の食材の放射線量の測定を実施して下さいになり、私たち市民はとても嬉しく歓迎いたします。私たち市民は、松井市長そして掛川市に守られていると、心から感じるができます。

放射能についてはまだ解明されていないことが多く、専門家によって見解が違います。また、給食の食材の放射線量の測定方法については、地方自治体によって様々です。どの意見が正しくそしてどの方法が一番良いのか私たち市民も戸惑うことが多く、講演会に参加し、勉強会などを行うことで情報・知識を得るようにしています。私たち市民から行政に提案することで、行政と一緒に子どもたちが安心して学べる環境を作る取り組みを行なっていきたいと思ひます。

給食の放射線量の測定実施方法と測定結果の公表方法について、以下ご検討下さるようお願いいたします。

- (1) 「牛乳」「お米」「パン」「その他の食材」に別けた計測
- (2) 現在、国が定める暫定基準値以下の場合も含め計測値を産地とともに公表

この暫定基準値は現在見直されており、来年4月にはより厳しい基準値が設定されます。¹ 子どもたちが食べる食材に放射性物質が含まれている場合は、国が定める基準値とは関係なく、どの位の量が含まれているのか知りたいと思ひています。

- (3) 測定時の見学

私たち市民は、どのように放射性物質が測定されるか見学をして学びたいと思ひています。一度見学させていただける機会をいただければ幸いです。

- (4) 食べる前の測定

食べる前に測定することは、大変難しいということは、私たち市民も理解しています。将来的には食べる前の測定について視野に入れて下さるようお願いいたします。

被災地のがれきの受け入れ

川勝県知事の呼びかけにより、県内の自治体が、被災地の瓦礫の受け入れを検討されて

¹ msn.産経ニュース食品中の放射性物質、新基準の上限は「年間1ミリシーベルト」 今後は食品の設定が課題 2011.10.28
<http://sankei.jp.msn.com/life/news/111028/trd11102820280022-n1.htm>

います。² 地方自治体ががれきを受け入れる場合、国が定める放射線量の規制値をクリアしていることが条件となっていますが、国が定める規制値に危険性を唱える専門家もいます。私たち市民も、被災地を応援したいと思っており、寄付などできることをしています。しかし、被災地のがれきを受け入れることで、汚染されていない土地を放射能汚染させることには反対です。国の定める規制値ではなく、放射性物質が含まれてない場合のみ、がれきの受け入れをされることをお願いいたします。

原発震災時の掛川市の対策

9月15日に申入れをした、原発震災時における以下の掛川市の対策について、引き続きご検討下さるようお願い申し上げます。東海地震は明日発生するかもしれません。

- (1) コンクリート屋内退避が出された場合の避難場所
- (2) 避難措置が出された場合の避難場所と避難方法
- (3) ヨウ素剤の配布方法（事前配布を希望）

私たち市民は要求するだけでなく、掛川市とともに原子力、放射能について学び、安全で安心して暮らせる環境を作って行きたいと思っています。

松井市長、市職員の皆さまのご健康をお祈り申し上げます。
心からの感謝を込めて。

浜岡原発を考える掛川市民有志

² 東京新聞 TOKYO Web 震災がれき 静岡県も受け入れ 2011年11月11日
<http://www.tokyo-np.co.jp/article/national/news/CK2011111102000021.html>